

# 子どもの貧困対策実践交流会 2022

3月13日(日)

14:00~16:30

オンライン開催 (YouTube Live)

【参加費】無料

【定員】300名



## 「ハウジングファーストの今」

### ○報告：小林美穂子さん

一般社団法人つくろい東京ファンド メンバー／支援を受けた人の居場所兼就労の場として設立された「カフェ潮の路」コーディネーター。コロナ感染拡大の中で、住まいを失った人たちの支援に奔走、その記録は共著『コロナ禍の東京を駆けるー緊急事態宣言下の困窮者支援日記』（岩波書店／2020）として出版されている。

### ○報告：岸田久恵さん

NPO 法人猫の足あと代表／元小学校教諭。子どもたちの学習支援からスタートし、地域のネットワークを広げながら、生活支援、そして居住支援も。「猫の足あとハウス」は第1、第2、昨年未第3ハウスを開設して、地域から子ども若者を支える活動を実践。

### ○実践、意見交流

長らくコロナ禍が明らかにしたことは、医療や介護、さらに社会保障や雇用など、基盤となるべき社会制度全体のせい弱さであり、あらためて可視化されたのが「貧困」でした。それでもなお、第一に「自助」が押し出される政治は続き、生活が困窮した人たち、家庭に拠り所を求めることが難しい人たちの中には、「住まい」を失い、「食料」の支援を求める人たちが生まれています。

「ハウジングファースト」は、まず安心できる「住まい」の提供が必要であること。「住まい」を拠点に、新たなつながりをつくること、私たちの社会のあり方にも変化を及ぼすとする、米国発の社会運動実践です。実際、少なくない支援団体がシェルターやステップハウス、シェアハウス等の「住まい」を設けています。誰にとっても「住まい」は権利であることを、確認し合いたいと思います。

※ハウジングファースト：＝無条件に安定した住まいを提供する。  
「安定した住まいを得たいか否か」、問いはそれだけ。得たいならば、住まいを支援する。そして必要に応じて、本人のニーズにもとづいた支援をする。支援と住まいは完全に分けられる。支援がなくても住まうことができ、住まいを失っても支援を利用することができる。それが、ハウジングファーストである。＝稲葉・小川・森川編『ハウジングファースト』（山吹書店／2018）の帯より。

【申し込み】参加ご希望の方は、

下記登録フォームからお申し込みください。

<https://www.kokuchpro.com/event/ecp20220313/>

お申し込み完了後、こくちーずから受付完了メールが届きます。

受付完了メールが届かない場合、必ず主催者までお問い合わせください。

フォームからお申し込みができない場合は、

件名に【実践交流会申込】と明記のうえ

①お名前、②お立場・ご所属、③お住まいの都道府県、④電話番号をご記入いただき

右記メールアドレス宛にお申し込みください。 mail@end-childpoverty.jp

■問い合わせ・当日連絡先：

メール mail@end-childpoverty.jp

TEL 070-6576-3459

■主催：「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク

■助成：公益財団法人キリン福祉財団



登録フォーム

二次元コード

はコチラ▶▶▶

